

6. 分娩前乾乳期に着目した牛乳房炎予防対策普及推進の試み（第1報）

豊後大野家畜保健衛生所¹⁾ 大分家畜保健衛生所²⁾

○磯村 美乃里¹⁾ 病鑑 武石 秀一²⁾

(病鑑) 人見 徹¹⁾ 丸山 信明¹⁾ 木下 正徳¹⁾

【はじめに】

酪農経営を安定させるためには効率的な乳生産は不可欠である。なかでも乳房炎による乳量損失の影響は大きい。今回、乳房炎の発生を抑制するために、感染時期として可能性の高い分娩前10日前後（以下「分娩前乾乳期」）に着目し、分娩前乾乳期治療について実証を試みた。さらに、その結果に基づいて管内酪農家への普及活動に取り組み始めたので、その概要を報告する。

【分娩前乾乳期治療の実証】

管内で搾乳牛約100頭を飼養するA農場及び20頭を飼養するB農場の分娩予定牛27頭（103分房）について、各分房毎に分娩前10日前後における乳汁検査を実施し、乳房炎罹患状況を調べ、治療が必要とされた分房について治療を実施。その後、分娩後10日前後における乳汁検査を実施し、乳房炎罹患状況を確認。乳汁検査では、乳汁性状の目視観察（色調及び粘り）、CMT変法による凝集判定、細菌検査及び薬剤感受性試験を実施。また、乳房炎の程度を評価するために、CMT変法での凝集判定成績及び分離細菌のコロニー数をそれぞれ5段階（0～4）に分類し、両者の合計スコア（以下「乳房炎スコア」）が2以上を示した場合「乳房炎」と判定。

その結果、分娩前乳房炎率（乳房炎スコア2以上の分房率）は44.7%と約半数の乳房炎分房を確認。このうち治療したのは25分房で、その乳房炎スコアの平均値4.8は分娩後には1.67まで低下。分娩前に治療した乳房炎分房のうち84%が分娩後に改善。

【管内農家の意識調査及び推進活動】

管内25戸の農家に対して分娩前乾乳期治療に対する普及用パンフレットを作成配布し、意識調査を実施したところ、14戸の農家より回答あり。分娩前乾乳期の検査を実施したことがある農家は無く、分娩前の搾乳に不安があると回答した農家は8戸。パンフレット記載の実証結果を見て興味を示したものの分娩前搾乳への不安を口にした農家は3戸。

現在、取り組みを希望した5戸の農家に対し、家保、普及、県酪で連携をとりながら、分娩前乾乳期の検査及び治療、並びに乾乳期の飼養管理にかかる指導を実施中。

【まとめ】

今回、大分県内で初めて分娩前乾乳期検査及び治療について実証した。その結果、分娩前乾乳期治療の効果を確認出来、乳房炎予防に有効と考えられた。

今後普及を推進する上で、分娩前乾乳期検査及び治療に加えて、乾乳期の適切な飼養管理技術の定着に努め、乾乳期に起因する乳房炎の発生を抑えていくことが重要である。